

東京国際映画祭協賛事業
「文化庁映画週間 - Here & There」

Film Festival Convention 2004

第2回文化庁全国映画祭コンベンション

映画上映ネットワーク会議や、京都での「文化庁シンポジウム」など、今年は様々な「会議」が開催されています。

でも、この「全国映画祭コンベンション」には、これまでの会議にはなかった企画がたくさん盛り込まれています。

その1：映画上映・・・来年生誕100年を迎える成瀬巳喜男監督の上映される機会の少ない貴重な作品「女人哀愁」を上映します。

その2：ディスカッションのテーマは「地域における上映—上映する側と配給する側」。上映者にとって最も重要なパートナーである配給者の方々をパネリストに迎え、地域における上映活動の振興を共に考えます。

その3：今年、白鳥あかねさんが文化庁映画賞を受賞されました。受賞理由には、映画人としての功績とともに、あきた十文字映画祭顧問、川崎しんゆり映画祭実行委員長として、映画の普及に寄与されたことが挙げられています。レセプションではこの受賞をお祝いしたいと思います。

日程：2004年10月27日[水]

会場：六本木オリベホール（ラピロス六本木8階/地下鉄六本木駅直通）

<http://www.oribehall.com/>

主催：文化庁

共催：コミュニティシネマ支援センター/財団法人国際文化交流推進協会(エース・ジャパン)

Film Festival Convention 2004

第2回文化庁全国映画祭コンベンション

13:30～15:00 主催者挨拶/

＜映画上映＞上映作品:「女人哀愁」成瀬巳喜男監督(1937年、74分)

来年、2005年、日本映画の巨匠成瀬巳喜男監督生誕100年を迎えます。日本各地の映画祭・映画上映関係者にとっては、「成瀬100年」にどんな企画上映を行うのか、行うことができるのかは、重要な関心事です。成瀬100年に先立って、このコンベンションでは、上映される機会の少ない成瀬作品の1本「女人哀愁」を上映します。(東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品)

15:15～16:30 <プレゼンテーション>

日本各地の映画祭を紹介。今年は、「映画の未来を担う”こども”」をテーマにした活動に焦点を当てます。

(1) **SKIP シティの活動～映像学習プログラムと国際Dシネマ映画祭**

スキップシティでは、映像に関わる様々な企画を展開、注目を集めています。埼玉県川口市の小中学校と連携して実施している映像学習プログラムは、全国に先駆けて、学校教育に映画・映像教育を導入した野心的な試みです。

(2) **各地のこども映画祭～各地で行われている個性的な「こども映画祭」を紹介します。**

キンダー・フィルム・フェスティバル(東京)

キンダーフィルムフェスト・きょうと京都国際子ども映画祭

ゆふいんこども映画祭

16:40～18:30 <ディスカッション>「地域における上映——上映する側と配給する側」

上映は、映画を「上映する側」と「提供する側」の協力関係なしには成立しません。このディスカッションでは、地域における上映活動を振興するためには何が必要なのかを、映画を上映する側、提供する側、双方の関係者がいっしょに考え、意見を交換することによって、「上映」と「配給」の新しい関係をつくることを目指します。

上映者側:

自主上映・コミュニティシネマ: 佐藤英明氏(京都 RCS)

京都 RCS は、京都の映画館「みなみ会館」、滋賀の文化施設「滋賀会館」のシネマホールなどのプログラムを手がけている。

ミニシアター: 田井肇氏(大分シネマ5)

大分市にあるミニシアター「シネマ5」は1980年開館。年間約80本を上映する。

映画祭・コミュニティシネマ 三上雅通氏(青森なみおか映画祭/NPO harappa)

「なみおか映画祭」は1992年から青森県浪岡町で開催。実行委員自らが見たい映画を上映、野心的なプログラミングを行っている。2003年に設立したNPO harappaでも新たな上映活動を展開する。

コミュニティシネマ支援センター: 松本正道氏(アテネ・フランセ文化センター)

配給者側:

日本映画の古典的名作を数多く提供する大手映画会社(調整中)

松竹株式会社 常務取締役久松猛朗氏

インディペンデント配給会社

アスミック・エース エンタテインメント株式会社/映画配給グループ営業チーム

ゼネラルマネージャー 金田宏昭氏

株式会社ギャガ・コミュニケーションズ/ギャガ・ディストリビューション・カンパニー劇場営業グループ

マネージャー 館英彦氏

司会: 佐伯知紀(文化庁芸術文化課)

18:45～21:00 レセプション